

神根中だより

～聴き合い、学び合える居心地の良い学校～

令和5年11月号

学校教育目標
主体的に学び合い
心豊かでたくましい生徒



川口市立神根中学校

〒333-0823 埼玉県川口市石神1515-1
電話 (048) 296-7025

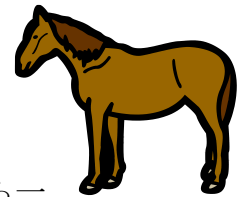
続・りこうな馬ハンス

校長 松村 一人

10月号からの続きです。

【問題3】 プングストさんは、どのような実験をして、「馬は人間のように考える（計算する）ことはできない」と証明したのでしょうか？

そして、なぜ馬のハンスは計算式の答えが分かったのでしょうか？



【答え】

プングストさんは、問題を書いたカードをたくさん作り、その中から一枚取り出し、ハンスだけに見せました。その辺にいる人たちはもちろん、プングストさん自身も、問題を見ないようにしました。そして、ハンスが床をたたき終わってから問題のカードを見て、ハンスの答えが合っているかどうか確かめることにしました。

ハンスは問題を見てから、いつものように床をたたき始めました。ところが、ハンスはいつまでたっても床をたたくのをやめませんでした。

みなさんは、このナゾがとけますか。

普通、問題を出す人は答えも知っています。答えを知っていますから、ハンスが床をたたき始めると、心の中で「一回、二回、……」と数え始めます。そうすれば、ハンスがたたき終わった時に答えが合っていたかがすぐにわかります。そして、ハンスが正しい数をたたいた時、答えを知っている人は、自分でも気がつかないうちに、ホッとしたり、がっかりしたりするのです。ハンスはそういう表情を見て、床をたたくのをやめていたのです。

そのことがわかってから、プングストさんは、自分の表情を変化させて、ハンスからどんな答えでも引き出すことができるようになったということです。

こうして、ハンスは人間のように計算ができないことが証明されました。ですから、「ハンスはりこうではない」…と考えますか？でも、よく考えると、「ハンスは人間の表情を読み取る」とことができるのですから、別の意味で「りこうな馬」なのかもしれません。

そして、人間はもったりりこうなので、周りの雰囲気を感じ取ったりできるかもしれません。人間も訓練すれば、先生の表情を読み取って答えを引き出せるかも知れませんよ。

【紹介】

東京大学名誉教授の佐藤学先生の本「教室と学校の未来へ ― 学びのイノベーション―」（小学館）が出版され、その中で神根中学校や神根地区小中学校の取り組みが紹介されています。

